

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和2年度病虫害発生予察特殊報第3号について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

特殊報第3号

1 病虫害名：ネギハモグリバエ（別系統）

2 学 名：*Liriomyza chinensis* Kato

3 作物名：ネギ

4 発生の経過と概要

令和2年12月上旬に、県内の露地ネギほ場において、従来のネギハモグリバエによる被害とは異なる、葉が激しく食害され白化する症状を確認した（写真1）。採取した幼虫を飼育して蛹化させ、羽化で得られた成虫について農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門虫害ユニットに遺伝子解析を依頼した結果、従来から発生しているネギハモグリバエの系統（以下、A系統）とは異なる別系統（以下、B系統）と同定された。

5 国内での発生状況

B系統の発生は、国内では平成28年に京都府で初めて確認された。その後、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府、愛知県、東京都、佐賀県、岐阜県、鳥取県、兵庫県、岩手県、秋田県、福島県、鹿児島県の計21都府県で発生が確認されている。

6 形態

簡易な形態観察でのA系統とB系統の識別は困難である。両系統とも成虫の体長は約2mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である（写真2）。幼虫はうじ虫状（写真3）で、成長すると体長は約4mmに達し、蛹は体長約3mmの俵状である。

7 生態

両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化幼虫は葉の内部を潜行して葉肉を食害する。成長した幼虫は葉から脱出し、地表または土中で蛹化する。

8 被害

B系統の初期の食害痕は、A系統と同様に不規則な白線状を示すが、A系統に比べ1葉あたりに寄生する幼虫数が多く、複数の幼虫が葉肉を食害するため、近接した食害痕同士が癒合し、葉が白化した症状を呈する（写真1、4）。

9 防除対策

- (1) 両系統は形態での識別が困難なため、発生を認めたら、系統にかかわらずネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用のある薬剤により、初期防除を徹底する。
- (2) 被害葉および収穫残さは本虫の発生源になるので、ほ場に放置せず、地上部に残らないよう処分を徹底する。



写真1 ほ場での発生状況



写真2 成虫



写真3 幼虫



写真4 幼虫による食害

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況